

見つけた！10ユーログルメ



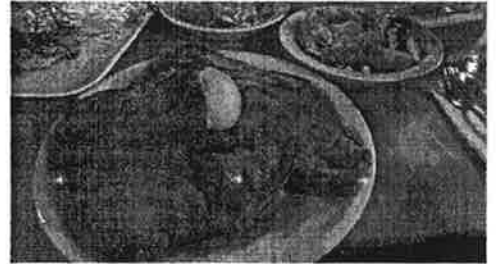
シュニッツェルが名物 Steinheil 16

新年おめでとうございます、今年も10ユーログルメをよろしくご愛読ください。時々休載がありますが、これは筆者がサボっているわけではありません。せっせとアンテナを張り巡らせているのですが、10ユーロ以下で味もボリュームも、と三拍子そろった店を見つけるのはなかなか難しく、いざ取材に出かけても、雰囲気がチープすぎたり、味がイマイチだったりみなさんにおすすめできない場合があるのです。

さて今回は10ユーロをちよっぴり超えますが皆さんの好きなシュニッツェルの店を紹介します。ドイツレストランなどの店にもあるメニューですが、ここのはちよっとちがいます。お勧めのシュニッツェル (Schnitzel Wiener Art mit frittierten Kartoffeln oder Pommes Frites, dazu Salat 10,90€) はゆに普通の三倍の大きさがあり、まずどっかーんとお皿からはみ出さんばかりの大きさに度肝をぬかれました。この草履のような巨大さ・・・完食できるか？。周囲を見渡すと皆さん普通にパクついているではありませんか。うーんすごい、健啖家ぞろいなあ。もうひとつの注文は七面鳥のステーキ (Putensteak mit Kräuterbutter, Folienkartoffeln mit Kräuterquark, dazu Salat 9,90€) にしてみました。これもじゃじゃーんとびっくりのサイズ・・・ではなかった。あらら・予想を裏切られる小ささ・・・。付け合せの焼きジャガイモが大きく、食べ終わるとけっこう満足しましたが、他の料理はどれも量が多いのになぜこのメニューだけ小さいのかなあ。

メニューにはその他ハム入りマカロニ (Schinkennudeln mit Ei und Salat 8,20€)、七面鳥肉入りサラダ (Salatteller mit Balsamico Dressing, gebratenen Putenbruststreifen und Pilzen 9,50€) ほかののっているのいろいろお試しください。ビールはアウグステイナでヘレスが0,5 L 3,6€、コーラが0,4L 3,50€、アップルショーレ0,5L 3,50€の値段です。

とにかく次々と客がやってきて店内はいつも満席、ウエイトレスのお姉さんも人並みをかき分けお皿を運んでいます。待つのがいやなら予約していきましょう。さあジャンボシュニッツェルに挑戦！。



Steinheil 16

住所 Steinheilstr. 16, 80333 München

交通 U2 Theresienstraße 駅から歩いて3分

電話 089-527488

営業時間 月一日 10:00 Uhr bis 01:00 Uhr

<http://www.steinheil16.de>

隔号連載エッセイ 小松英一郎の「天文学者ですが何か？」

ミュンヘン日本人会の皆さま、初めまして。2012年夏に、妻とミュンヘンに移ってきました。定年まで勤め上げる決意で、あと25年間はミュンヘンにいます。夫婦ともどもよろしくお願いいたします。

僕は天文学者です。この度年に三回記事を連載させていただくことになりました。大したことは書けませんが、おヒマな時に、普段は決して目にするのではない天文学者なる生き物の生態を鑑賞して楽しんでいただければ幸いです。

初回なので、自己紹介をさせてください。僕の職場は、UバーンのU6をひたすら北上した終点のGarching-Forschungszentrum（ガルヒング・研究センター）にあります。ここはミュンヘン工科大学（TUM）、ヨーロッパ南天天文台（ESO）の本部、そして3つのマックス・プランク研究所がひしめく一大研究拠点で、僕はその一つであるマックス・プランク宇宙物理学研究所（Max-Planck-Institut für Astrophysik）で所長（Direktor）をさせていただいています。

マックス・プランク研究所はドイツ全土、および外国数カ所に82の研究所を持つ研究機関で、天文学や物理学、化学などの自然科学のみならず、生物学や医学、人文科学に至るまで幅広い分野の研究をしています。予算はほぼ全て公的なお金で賄われていて、半分はドイツ政府から、もう半分は州政府から出ています。たとえば、僕の研究所の予算の半分はバイエルン州政府から出ています。マックス・プランク研究所で得られる華々しい研究成果は、皆さまの税金で成り立っているのです。いつも納税ありがとうございます。大切にに使わせていただいています。

82の研究所を抱えるマックス・プランク協会（Max-Planck-Gesellschaft）の年間予算は18億ユーロです。この予算は、東京大学の年間予算（2400億円）とほぼ同じです。大学一つで82の研究所の総予算に匹敵するのですから、東京大学は、なんとリッチなことでしょう！あるいは、マックス・プランク研究所の費用対効果が良いということかもしれません。とにかく、皆さま方から頂いた大切な税金を、最先端の科学という形でお返しするのは私たち研究者の使命です。

僕は、宇宙の始まりを研究しています。

「宇宙の…始まりを…研究している？」

意味がわからない、そう感じる方がほとんどようです。「宇宙の始まり」なんてものは、まともな科学研究の対象になり得ない、と。心優しい人たちは「わあ、ロマンがありますね」と言ってくれますが、おそらくは、僕の研究テーマはただの空想であり、実証科学としては成立しないものだと思われているはずですよ。

天文学を実証科学とみなしている人はどれくらいいらっしゃるのでしょうか。たとえば、「すばる望遠鏡で、110億光年離れた銀河からガスが吹き出す瞬間を捉えた」という新聞記事を読んだとします。これを見て、「宇宙すげえ」とか「ロマンがある」と思っていたとしても、頭のどこかでは「でも結局これは、天文学者のお話（空想）であって、本当のところはわからないのでしょうか？」とか、「天文学者のお話はロマンがあっても楽しいけど、とても本当のこととは思えない」と思われているのではないのでしょうか。どうも一般の方には宇宙の研究は科学として認知されていないようです。

そこで僕は続けます。「空想ではなくて、宇宙の始まりを望遠鏡で見て研究しているんですよ」と。するともう、「小松英一郎は、もしかしてやばい人なんじゃないか」と思われることになります。そんなものが見えるわけがない。子どもだって知っている、と。

でも、本当なのです。かつて、宇宙は灼熱の火の玉で、その灼熱の宇宙を満たしていた光は消え去ることなく、今も宇宙を満たしています。この「火の玉宇宙の残光」は、適切な装置を使えば測定できるのです。この測定データをうまく解析すれば、宇宙の始まりの状態を手取るように理解できます。僕は、そうやって日々宇宙と向き合い、給料をもらっています。宇宙の始まりの研究は、実証科学なのです。

これは、なかなか実感としてはわかってもらえません。でも是非わかってほしくて、一般向けの講演会ではあれこれ手を尽くしますが、手応えはまちまちです。それでも僕はわかってほしいのです。「あの星よりももっと遠くから、宇宙が始まった頃の光が、今もここに届いている」のだ、と。

とまあ、こんな感じでやらさせていただきます。今後ともよろしく願いいたします。 Bis zum nächsten Mal!

★小松先生のプロフィール

兵庫県宝塚市出身。東北大学理学部卒業、理学博士。

アメリカ在住13年の研究生活をへて現在、ミュンヘン郊外ガルヒングのマックス・プランク宇宙物理学研究所所長。

米国プリンストン大学博士研究員、テキサス大学教授を経て2012年より現職。

東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構の主任研究員も併任。

日本天文学会林忠四郎賞（2015年）や基礎物理学ブレイクスルー賞（2017年）など、国内国外の賞を多数受賞。